

第25回日本心臓核医学会総会・学術大会を終えて

Summing up the 25th Annual Meeting of Japanese Society of Nuclear Cardiology

一色高明

Takaaki Isshiki, MD, FACC

帝京大学医学部 内科学教室 (現 上尾中央総合病院 心臓血管センター)
Department of Medicine (Cardiology), Teikyo University School of Medicine,
(Now at Cardiovascular Center, Ageo Central General Hospital)

第25回日本心臓核医学会総会・学術大会を2015年6月26・27日に東京コンベンションホール(京橋)で開催させていただきました。本大会では「心臓核医学からの発信情報を総括する」をメインテーマに掲げ、心臓核医学領域における最新の情報を共有することを目標としました。計41演題の応募をいただき、会期中にはコメディカル71名を含め計311名のご参加の下に活発な討論が行われました。

本大会では、心臓専門機器としての新しい半導体SPECT装置に関する話題が多く報告されました。イブニングセッション、テクノロジストシンポジウムをはじめとして、一般演題にいたるまで、検出機能の改善とともに被曝の軽減が期待できることなど、将来の可能性が示されたものと理解しています。

PETに関する話題も引き続き本大会の重要なTOPICでした。第16回学会賞の大島覚氏、第4回学会賞技術部門の須田匡也氏、第15回若手研究者奨励賞の横山らみ氏をはじめ、テクノロジストシンポジウ

ムでの講演など、心サルコイドーシスの臨床から心筋血流の評価にいたる広い分野での先端的な研究がPETを用いて進められていることを実感しました。

新しい企画として、わが国で使用可能なGatedスベクトプログラムである「QGS」「cardioREPO」「Emory Cardiac Toolbox」「Heart Function View」を同一の症例を用いて比較する試みを行いました。それぞれのソフトに精通した演者の皆様の講演によりそれらの工夫や特徴が明らかにされたと思います。

このほかにも、特別講演、教育講演、シンポジウムなどを通じ、心臓核医学の歴史と将来性から、技術的な問題点の再確認、心臓核医学による心不全や心筋血流の評価の現状、そして医療経済やデータベースとしての医療の情報化などさまざまな側面から幅広い話題が提供されたものと総括しています。

プログラムの作成や運営にご協力いただいたプログラム委員の先生方、帝京大学の関係者の皆様に感謝します。

